『「エコ・フィロソフィ」研究』第６号の発刊に寄せて

TIEPh 代表　山田利明

昨年の東北大震災から丁度１年。この間、TIEPh は IR3S や SSC とともに復興を目指したシンポジュウム、研究集会に参画してきた。そこでの議論は多く復興の手順、方法についての問題であったが、議論の障害となったのは、原発の存在であった。これは無理もない問題で当然といえば当然であるが、日本のエネルギーをどのようにしていくのか、この議論なくしては復興計画全体が進まない。しかし日本でこの議論を始めると、必ず感情的議論に陥る。

将来のエネルギー問題を論ずるには、まずこの国の人々がどのような生き方を望んでいるのかを考えなければならない。安心・安全を実現するために、何を犠牲にするのか。人の生き方と直接かかわるところである。一見迂遠な議論にみえるが、それがなければ一歩も前に進まない。

TIEPh の「エコ・フィロソフィの確立と教育」は今年度から五ヵ年間、私立大学戦略的基盤研究形成事業として採択された。今後は教育に重点を置いた活動を通して、エコ・フィロソフィの確立を図らなければならない。新しい分野を拓きつつ、さらなる躍進を期待する。